

学位論文内容の要旨

| 学位申請者 | 田中 詩子 【比較社会文化学専攻 平成24年度生】 | 要 旨 |
|-------|---------------------------------------|---|
| 論文題目 | 日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成と影響要因 | <p>本研究では日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成の様相とその影響要因を明らかにすることを目的とした。第1章では日本における日系ブラジル人の子どもの現状についてデータや関連する研究を示し、アイデンティティ形成に問題を抱える可能性のあることを論じた。第2章では青年期のアイデンティティ研究について述べた後、エスニックアイデンティティに関する研究を概観した。日本における日系ブラジル人の子どものエスニックアイデンティティ形成には、二元的文化化の環境やブラジルへの帰国が影響することが示唆された。第3章から第6章では実証研究を行った。第3章では、日本の中学・高校に在学する日系ブラジル人生徒を対象に質問紙調査を行った結果、『ブラジル人的アイデンティティ』『統合アイデンティティ』『周辺化アイデンティティ』『日本人的アイデンティティ』の4因子が得られた。さらに、家庭生活環境、帰国体験、属性との関連を検討した。第4章では日本の小・中学校に在学経験のある日系ブラジル人青年を対象に質的調査を行った結果、エスニックアイデンティティの自己認識に影響を与える【家庭における体験】【学校における体験】【職場における体験】【帰国体験】の4カテゴリーが抽出され、体験の認識が影響していることが示唆された。第5章では日系ブラジル人青年が現在のエスニックアイデンティティの自己認識に至る過程を明らかにするために事例検討を行った結果、それぞれの形成過程は異なり多様であることが示された。第6章では事例検討からみたエスニックアイデンティティの自己認識形成の影響要因として、親子関係、周囲からのエスニシティに関する認識および帰国経験の有無と帰国年齢、帰国に対する自発性について検討した。第7章ではまとめと総合的考察として、上述した結果から日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティは、時期によっても場面によっても変容する可能性がある流動的なものであると考察した。本研究の意義は、多文化化している日本社会に居住する日系ブラジル人青年を対象に当事者の視点から多様かつ流動的なエスニックアイデンティティ形成の様相を示したことであるといえる。</p> |
| 審査委員 | (主査) 教授 加賀美 常美代 | |
| | 教授 浜野 隆 | |
| | 教授 熊谷 圭知 | |
| | 教授 伊藤 美重子 | |
| | 准教授 富士原 紀絵 | |